

荒牧町だより

第212号
荒牧町自治会
広報委員会

【自治会定期総会のお知らせ】

自治会では、令和2年度を迎えるにあたり、定期総会を開催いたします。

記

◇日時 令和2年3月14日(土) 午前9時30分

◇会場 荒牧町公民館

◇協議事項

- 一、令和元年度事業報告及び収支決算報告
- 二、令和元年度会計監査報告
- 三、令和2年度副会長の選出について
- 四、令和2年度事業計画(案)及び予算(案)について
- 五、その他

*定期総会資料は組長より各戸に配布します

【令和2年度組長会議のお知らせ】

記

◇日時 令和2年3月15日(日)午前10時

◇会場 荒牧町公民館

◇議題

- 一、令和2年度行事予定・集金予定について
- 二、荒牧町自治会執務時間、時間外連絡、担当地区代表について
- 三、自治会費の集金、募金の集金について
- 四、会計監査員の選出について
- 五、その他

(*令和2年度の自治会役員として大切な会議ですので、出席をお願いします。)

団地

地区のお正月恒例行事

新田・東

お焚き上げ 1月13日(月・祝)

朝から、かまきり公園(通称)には、ダルマや松飾りなどが積み上げられ、お清めをしたあとに点火し、お焚き上げが始まりました。火の周りに集まった人たち全員でお神酒を高く掲げ

「おめでとうございます!」と、新年のあいさつを交わしました。その後は、豚汁や甘酒やミカンを食べたり、子ども達が福引を楽しんだりしながら、ながら、互いに新年の抱負を語り合っていました。



不動明王祭 1月28日(火)

「長くお参りしてきたけど雨のお不動様は初めてだよ」と、今年は前例のない小雨の中での祭典でした。

傘を差しながら参拝者が見え、次から次へとお不動様に手を合わせ、それぞれの思いを願う姿で行列ができるほどでした。お正月の挨拶やお互いの健康を気遣う声、おでんを頬張りながらの情報交換などが境内一杯に飛び交い大賑わいでした。町の一隅での穏やかな場面に微笑んだり、手作りでもこの伝統祭事を続けなくてはと思ったりした一日でした。

多くの参拝者をはじめ祭典の趣旨に賛同してくださった方々に対し、祭典委員一同、心より厚くお礼申し上げます。(祭典委員一同)



ふれあいいいきいきサロン(試食会) 令和2年1月22日(水)

まず、地域包括支援センターの小林さんから「介護予防・生活支援サービス、一般介護等」の利用方法について説明があり、その後ライフデリ前橋店の松村さんから高齢者向けの宅配弁当種類の説明があり、提供された宅配弁当の試食を行いました。

(宅配弁当種類)

- ・普通食(一般のご高齢の方や生活習慣がきになる方おすすめ)、
- ・カロリー調整食(糖尿病の方におすすめ)
- ・透析食(腎臓病で透析治療中の方におすすめ)
- ・腎臓食(腎臓病で透析治療前の方)・ムース食(嚥下が困難な方におすすめ)



わが家のかわいいワンニャン

NO. 19

♥なまえ ゆき

♥紹介

フレンチブルドッグ

2017. 11. 10生

女の子

♥住まい

木暮さんの家

♥ひとこと

胸に♥のマークがある



ここ、どこ？(12)

この欄では、町内の気になる場所の写真を紹介していきます。さて、どこかわかりますか？



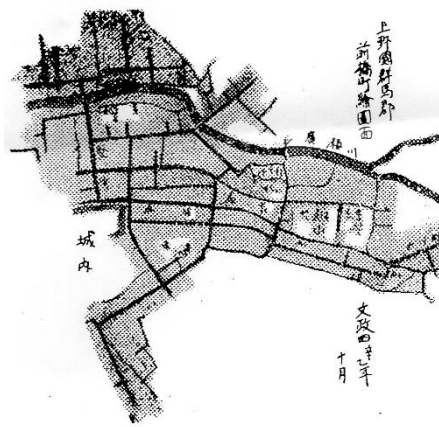
元パチンコ屋の跡地に建設される予定のガリキスタンプの作業現場です

まちかど探検 《no.51》

前橋市小史と荒牧町

「県都前橋系のまち」と上毛かるたにあるように、かつての前橋は質量共に優れた生糸の生産が盛んで、それに伴う財力を生かして、高崎市との間で県庁の所在地を巡る激しい争奪戦に勝ち、その結果、明治14年に、県庁の正式な所在地が「前橋」になったとの記録がある。

しかし、この前橋が県庁所在地の「前橋町」であったかどうかに関しては、なかなか興味のある記録が見られる。昭和30年に発刊された「続・前橋史話」の中に「市政が安定し始めた明治4年、前橋町の人口は6899人、戸数は1727戸の小さい町であった」と記され、少し前に発刊された「前橋史話」には「明治維新が施行された慶応3年から遡る約60年、文化文政期(1804～1840)11代将軍・家斉の時代に、既に「上野国群馬郡前橋町民」と画かれた古地図が残されている。



〔前橋史話〕

こうなると、前橋村という記録は見つからなかったが、前橋町の発祥はいつ頃なのかという事が問題になって

くる。「前橋市史」によると「明治21年4月に公布された町村制により、かなり意図的に東群馬郡・南勢多郡の中の町や村が統合されて前橋町が発足した。」とある。何れにせよ前述の県庁所在地が確定したのは「前橋町」であったと考えられる。

しかし、早くも明治23年には町議会等の要望により市制施行への議論が高まり、関係者が津、岐阜の両市へ視察に行くなどの結果、内務省から明治25年4月1日から市制が設定される通達があった。これにより全国で41番目、関東地方では東京、横浜、水戸に次いで第4番目の市の誕生となった。勿論本県では最初の市であり、初代市長には下村善太郎氏が就任した。

さて、荒牧町については昭和30年3月に刊行された「南橋村史」によると「江戸時代に存在した荒牧・田口・関根・川原・上小出・下小出・北代田・日輪寺・川端・青柳・竜蔵寺・上細井・下細井の13村が明治維新の際(明治4年)廃藩置県により南橋村として合併され、これ以降は村ではなく南橋村大字荒牧としての存在となった。」と記されている。

明治10年太政官からの通達により編纂された「上野国郡村史」の中に「荒牧村」の名が見られ、小字として台所北、台所、黒岩、堰下、宿後、上宿、下宿等、現在でも残っている27の小字の名称が挙がっている。

都丸勝自治会長の時に発刊された「荒牧町30年誌」の中に、「昭和29年9月、南橋地区13村字は町村合併法により明治25年に市となっていた前橋市に合併され、当時の村名から町名に改名され、それまでの荒牧村から荒牧町になった」と記されている。

現在の荒牧町には上宿、下宿、中荒牧、新田東、団地区の5地区で運営されている。9月現在の人口は4965人、世帯数は1950戸である。(赤松)

文政四年の前橋町絵図

本町の勝山氏所蔵の地図である。八景の一部一ぱいにひろがる程大きく、前橋古地図としては、これと同年に作られた、天川原の地図と共に、最良のものであろう。
この地図によると当時の前橋町は、広瀬川以南、田町より北までしか無く、非常に小さなものであり、それが東は中川町がのびて天川町と連り、北は広瀬河岸、細ヶ沢あたりへ発展しようとする形勢がみられる。

編集後記

『まちかど探検』も50回を超えました。筆者が町の歴史等について、当時を知る人に尋ねたり、関係する書物を読み込んだりと、足を棒にしてまとめてきたものです。そのご尽力に心より感謝するとともに、荒牧町の住民の証しとして、町のルーツをしっかりと心に刻んでいってほしいと思います。(唐澤)

